

# 内部質保証最終報告

## (3) 入試・国試部会

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 医学部入学試験検討委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 入試センター長 中川 淳

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
<p>目標・計画</p>	<p>（文字数 700 字以内：要望。①独自の課題（目標チャレンジ部目標）、②事業計画の実行課題、③自己点検評価報告書の問題点、に分けて記載ください。）</p> <p>① 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 31 年度、令和 2 年度選抜試験で延べ志願者数 4,000 名を確保していたが、令和 3 年度選抜試験では 3,840 名となり、部及び中期計画での目標値である 4,000 名を下回った。このため、医学部選抜試験における延べ志願者数で 4,000 名を確保する。</li> </ul> <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中期計画目標に設定されている偏差値目標において、一般選抜試験（前期）の偏差値基準で私立医科大学上位 5 校以内を目指す。その方策として、事業計画で定められた入学試験の成績と入学後の成績、モニター学生の入学後の成績、学習態度などを踏まえて、学生の分析評価を行い、入学者選抜方法の改善を目指す。</li> <li>● 入試相談会、資料請求、オープンキャンパス等のデータと志願者数の相関を分析し、目標チャレンジ部目標である志願者数の増加に繋げる。</li> </ul> <p>③ 自己評価報告書の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別枠及び地域枠で入学した学生が、卒後定められた内容（診療科／診療地域／勤務年数等）を履行しているかを調査することで、不履行を起こさない特別枠及び地域枠の学生獲得の検証を行い、選抜試験の精度を高める。</li> </ul> <p style="text-align: right;">文字数 402 字/700 字</p>	<p>令和 3 年 9 月 24 日開催委員会において承認</p>
<p>中間報告</p>	<p>① 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和 4 年度学校推薦型選抜試験で志願者を昨年度比 70 名増の 468 名を獲得し、学校推薦型選抜試験では受験者増を果たすことができた。12 月 13 日から一般選抜試験の出願も始まり、出願状況を注視している。</li> </ul> <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 既に偏差値向上委員会にて「偏差値の仕組み」を理解するための取り組みや昨年度入学生の 1 学年の GPA の分布を分析して、入試区分の募集定員の変更を行うなど対応をしている。今年度も新カリキュラムの学生の履修成績状況を年度末に確認して、次年度の検討委員会で報告するための準備をしている。</li> <li>● 過去のデータを集計し、相談者から志願者への繋がる説明会の分析を行っている最中である。調査途中であるが、やはり医学部系予備校の説明会等、医学部系に特化している説明会参加者が志願者となる率が高い傾向となっている。</li> </ul> <p>③ 自己評価報告書の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在の所、追跡調査が出来ておらず、年度末に向けて調査していく予定である。</li> </ul>	<p>令和 4 年 1 月 31 日開催委員会において承認</p>

<p><b>最終報告</b></p>	<p>① 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 推薦型選抜では468名（昨年度比70名増）、前期試験では2,830名（一般1,755名、共通利用590名、併用試験485名：昨年度比36名増）と、現時点では昨年度比106名増の3,298名となっているが、4,000名までは後期試験で702名の受験者を獲得する必要があり、過去の受験者数を踏まえると厳しいと言わざるを得ないが、現在後期試験の受付状況を注視している。</li> </ul> <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生の年度末成績を踏まえて分析を行い、次年度・再来年度入試に繋げるため、在学生の成績が揃っていない現段階で最終報告をすることは難しい。本課題は年度末を過ぎ4月以降に検討する。</li> <li>● 入試相談会の状況を分析した結果、医学部系の予備校説明会が直接的な受験者獲得につながることを確認できた。また、来場者層から、説明会の早い段階では保護者向けに、受験シーズンが近づくと受験者向けへの説明にシフトしていくことが効果的であることが判明した。更に、説明会参加者から受験者へとつながる可能性が高い地域でありながら、説明会のない空白地帯として、岡山・四国などがあることが判明したため、今後は受験者確保のため、岡山・四国への説明会を検討していく必要がある。</li> </ul> <p>③ 自己評価報告書の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間報告で述べたとおり、年度末に向けて調査準備している最中で、現状進展はない。</li> </ul>	<p>令和4年2月28日開催委員会 において承認</p>
<p><b>自己評価</b></p>	<p><b>成果</b></p> <p>入学者選抜は、年度末まで続き入学者確定後の内容や在学生の入学後の成績状況を踏まえて今後の改善をしていくため、現時点では今年度のデータはあまり収集出来ておらず、昨年度までのデータの分析結果しか出ていない状況である。</p> <p>なお、最終報告に記載のとおり、4,000名の受験者獲得は厳しいと状況であることは推測できる。</p> <p>また、説明会は、時期によるターゲット層の違いや、説明会空白地域が判明したため、次年度以降の説明会の参加決定などの指標を増やすことができた。</p>	
	<p><b>課題</b></p> <p>入学者選抜は、年度を跨いでデータを収集・改善していく内容が多いため、年度末までに全ての結果を出すのは難しい。</p> <p>入学者選抜試験が終了した後に改めて分析を行い、上記の課題に取り組んでいく必要があるため、引き続き情報を収集し、次年度・再来年度の入学者選抜への改善へとつなげていく。</p>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 看護学部入試検討委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 看護学部入試副センター長 安酸 史子

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
<p><b>目標・計画</b></p>	<p>（文字数 700 字以内：要望。①独自の課題（目標チャレンジ部目標）、②事業計画の実行課題、③自己点検評価報告書の問題点、に分けて記載ください。）</p> <p><b>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</b></p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省の定める大学入学者選抜実施要項及び入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）に基づき、入学者選抜実施体制を適切に整備し、入学者選抜の公平性・公正性を確保する。</p> <p><input type="checkbox"/> 実志願者数 600 名、延べ志願者数 1,200 名の獲得。</p> <p><input type="checkbox"/> 入学定員に対する入学者数の適正管理。</p> <p><input type="checkbox"/> 一般選抜試験の追試験を設定し、新型コロナウイルス感染症に罹患または濃厚接触者となった入学志願者の受験機会を確保する。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校推薦型選抜試験合格者に対して、入学前課題を提示し、学習習慣を継続することでスムーズに入学後の学修に移行できる支援を実施する。</p> <p><b>②事業計画の実行課題</b></p> <p><input type="checkbox"/> 入試相談会、高校・予備校への資料送付、高校訪問に積極的に取り組むことで学部の認知度を高め、志願者獲得に繋がる学生募集活動を展開する。</p> <p><input type="checkbox"/> 入学者選抜試験成績、入学後の成績、モニター学生の追跡調査などを踏まえて評価・分析を行い、入学者選抜の自己点検・評価及び改善を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 入試相談会、資料請求、オープンキャンパス、キャンパス見学会や高校訪問の実施データと志願者データを分析し、志願者増加に繋がる学生募集活動を検討する。</p> <p><b>③自己点検評価報告書の問題点</b></p> <p><input type="checkbox"/> 志願者の経済的負担を軽減するため、複数選抜制度志願者を対象とした入学検定料割引制度を拡充するとともに、特待生制度対象者数を成績上位 10 名から 20 名に拡大し、出願を促す。</p> <p><input type="checkbox"/> 出張講義等を通じて高校生の医療に対する知識や興味を深める場を提供するなど、医療系複合大学の強みを生かした高大接続事業をさらに活性化すべく働きかけを行うとともに、本学を認知してもらうきっかけづくりを行う。</p>	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>
<p><b>中間報告</b></p>	<p><b>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>文部科学省の定める大学入学者選抜実施要項及び入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）に基づき、入学者選抜実施体制を適切に整備し、入学者選抜の公平性・公正性を確保する。</b> ⇒ 学校推薦型選抜試験は、大学入学者選抜実施要項および入学者受け入れの方針に基づき、公平性・公正性の確保をはじめとした基本方針や注意事項に沿って適切に実施された。一般選抜試験、大学入学共通テスト利用選抜試験についても同様に実施する。</li> <li>● <b>実志願者数 600 名、延べ志願者数 1,200 名の獲得。</b> ⇒ 既に学校推薦型選抜試験で志願者数 239 名を獲得している。また、今後実施する試験について予備校等の模試志願者状況からシミュレーションを行った。その結果、一般選抜試験で延べ 680 名、大学入学共通テスト利用選抜試験で延べ 360 名となり、上記目標数値を達成する予定である。</li> <li>● <b>入学定員に対する入学者数の適正管理。</b> ⇒ これまで入学定員に対し 1.0 倍での管理を実施している。今後も、入学定員に対して 1.1 倍のなかで適正に管理する予定である。</li> <li>● <b>一般選抜試験の追試験を設定し、新型コロナウイルス感染症に罹患または濃厚接触者となった入学志願者の受験機会を確保する。</b> ⇒ 追試験日を 2 月 19 日（土）に設定し、入学志願者の受験機会を確保した。また、ホームページにて、「新型コロナウイルス感染症への対応について」を既に公開しており広く周知を行っている。</li> <li>● <b>学校推薦型選抜試験合格者に対して、入学前課題を提示し、学習習慣を継続することでスムーズに入学後の学修に移行できる支援を実施する。</b> ⇒ 看護学部内で入学前課題の内容について検討を行った。その後、(株)ナガセと入学前課題に関する業務委託を締結した。現在は課題の発送準備を行っている。また、合格者本人へ送付するのではなく、高等学校へ課題を送付し、未履修科目課題実施のフォローを依頼するなど高大連携も図っている。</li> </ul> <p><b>②事業計画の実行課題</b></p>	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <p>・高大接続事業について、指定校の具体的な検討を ⇒ 令和3年度に実施した内容があれば最終報告に織り込んでください。なければ、令和4年度の計画に明記してください。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入試相談会、高校・予備校への資料送付、高校訪問に積極的に取り組むことで学部の認知度を高め、志願者獲得に繋がる学生募集活動を展開する。 ⇒関西圏を中心とした高等学校およそ 400 校へ定期的に資料を送付し、送付先に対して電話広報および訪問活動などのアフターフォローを実施することで、本学看護学部への認知を着実に広げた。また、個別相談型の入試相談会へ積極的に参加し、医療系分野希望者へのきめ細やかな対応を行った。(実施件数：系統別入試相談会…12 回、高等学校進路ガイダンス…21 回)</li> <li>● 入学者選抜試験成績、入学後の成績、モニター学生の追跡調査などを踏まえて評価・分析を行い、入学者選抜の自己点検・評価及び改善を行う。入試相談会、資料請求、オープンキャンパス、キャンパス見学会や高校訪問の実施データと志願者データを分析し、志願者増加に繋がる学生募集活動を検討する。 ⇒全入学選抜試験終了後に関連性を分析する予定である。</li> </ul> <p><b>③自己点検評価報告書の問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 志願者の経済的負担を軽減するため、複数選抜制度志願者を対象とした入学検定料割引制度を拡充するとともに、特待生制度対象者数を成績上位 10 名から 20 名に拡大し、出願を促す。 ⇒12 月 1 日の合同入試検討委員会で承認されたが、12 月 6 日の法大会で令和 4 年度の志願者数を見てから再度検討するとの理由から保留となった。</li> <li>● 出張講義等を通じて高校生の医療に対する知識や興味を深める場を提供するなど、医療系複合大学の強みを生かした高大接続事業をさらに活性化すべく働きかけを行うとともに、本学を認知してもらうきっかけづくりを行う。 ⇒今年度 3 回実施予定。看護学部教員が看護職の魅力やキャリアプランについて直接伝えることで、高校生が自身の将来について具体的に考えるきっかけとなり、高大接続事業の一つとして高校との関係を構築することができた。</li> </ul>	
<p><b>最終報告</b></p>	<p><b>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）</b></p> <p>□文部科学省の定める大学入学者選抜実施要項及び入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）に基づき、入学者選抜実施体制を適切に整備し、入学者選抜の公平性・公正性を確保する。 ⇒学校推薦型選抜試験、一般選抜試験、大学入学共通テスト利用選抜試験において、大学入学者選抜実施要項および入学者受け入れの方針に基づき、公平性・公正性の確保をはじめとした基本方針や注意事項に沿って適切に実施した。</p> <p>□実志願者数 600 名、延べ志願者数 1,200 名の獲得。 ⇒学校推薦型選抜試験 239 名、一般選抜試験で延べ 715 名、大学入学共通テスト利用選抜試験で延べ 327 名となり、全体の延べ志願者数は 1,281 名となり、目標数値を達成した。しかし、実志願者数は 562 名に止まった。</p> <p>□入学定員に対する入学者数の適正管理。 ⇒これまで入学定員に対し 1.0 倍での管理を実施している。今後も、入学定員に対して 1.1 倍のなかで適正に管理する予定である。</p> <p>□一般選抜試験の追試験を設定し、新型コロナウイルス感染症に罹患または濃厚接触者となった入学志願者の受験機会を確保する。 ⇒追試験日を 2 月 19 日（土）に設定し、入学志願者の受験機会を確保した。また、ホームページにて、「新型コロナウイルス感染症への対応について」を既に公開しており広く周知を行っている。</p> <p>□学校推薦型選抜試験合格者に対して、入学前課題を提示し、学習習慣を継続することでスムーズに入学後の学修に移行できる支援を実施する。 ⇒単元ごとに提出期日を定めている。提出期日は 1 月から 3 月にかけて 6 回決められており、継続的な学習を合格者に求めている。また進捗状況について、(株) ナガセから 2 週間ごとに報告を受けている。</p> <p><b>②事業計画の実行課題</b></p> <p>□入試相談会、高校・予備校への資料送付、高校訪問に積極的に取り組むことで学部の認知度を高め、志願者獲得に繋がる学生募集活動を展開する。 ⇒関西圏を中心とした高等学校およそ 400 校へ定期的に資料を送付し、送付先に対して電話広報および訪問活動などのアフターフォローを実施することで、本学看護学部への認知を着実に広げた。また、個別相談型の入試相談会へ積極的に参加し、医療系分野希望者へのきめ細やかな対応を行った。(実施件数：系統別入試相談会…12 回、高等学校進路ガイダンス…21 回)</p> <p>□入学者選抜試験成績、入学後の成績、モニター学生の追跡調査などを踏まえて評価・分析を行い、入学者選抜の自己点検・評価及び改善を行う。入試相談会、資料請求、オープンキャンパス、キャンパス見学会や高校訪問の実施データと志願者データを分析し、志願者増加に繋がる学生募集活動を検討する。 ⇒全入学選抜試験終了後に関連性を分析する予定である。</p> <p><b>③自己点検評価報告書の問題点</b></p> <p>□志願者の経済的負担を軽減するため、複数選抜制度志願者を対象とした入学検定料割引制度を拡充するとともに、特待生制度対象者数を成績上位 10 名から 20 名に拡大し、出願を促す。 ⇒12 月 1 日の合同入試検討委員会で承認されたが、12 月 6 日の法大会で令和 4 年度の志願者数を見てから再度検討するとの理由から保留となった。</p> <p>□出張講義等を通じて高校生の医療に対する知識や興味を深める場を提供するなど、医療系複合大学の強みを生かした高大接続事業をさらに活性化すべく働きかけを行うとともに、本学を認知してもらう</p>	<p><b>令和 4 年 2 月 28 日開催委員会において承認</b></p>

	<p>っかけづくりを行う。</p> <p>⇒今年度3回実施予定。看護学部教員が看護職の魅力やキャリアプランについて直接伝えることで、高校生が自身の将来について具体的に考えるきっかけとなり、高大接続事業の一つとして高校との関係を構築することができた。</p>	
自己 評価	<p><b>成 果</b></p> <p>総志願者数1,281名と昨年から74名増（昨年比106%増）と開部以来4年連続で総志願者数の増加を達成した。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で広報活動が制限されるなか、リアルとオンラインを併用したオープンキャンパスや感染症対策を徹底したうえでの少人数制でのキャンパス見学会を実施し、志願者のニーズへの対応を行った。また、過去の志願者データや予備校の模試データを分析し、本学への志願者数が少なかった偏差値62以上の高偏差値帯への高校訪問や電話広報などを行い、医療系複合大学の強みをアピールした学生募集活動を展開した。</p> <p>各選抜試験において、大学入学者選抜実施要項および入学者受け入れの方針に基づき、公平性・公正性の確保をはじめとした基本方針や注意事項に沿って適切に実施した。また一般選抜試験を受験できなかったコロナ罹患受験者のための追試験も実施予定である。</p>	
	<p><b>課 題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願者の経済的負担を軽減するための入学検定料割引制度拡充と特待生制度対象者数の拡大。（成績上位10名から20名へ）</li> <li>・指定校推薦入試など高大接続事業のあり方についての検討。</li> <li>・少子化の加速や、看護系大学の新設が続くなかで受験者の質・量の確保。</li> </ul>	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 リハビリテーション学部入試検討委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 中野治郎（入試副センター長、リハビリテーション学部入試委員会委員長）

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
<p>目標・計画</p>	<p>（文字数 700 字以内：要望。①独自の課題（目標チャレンジ部目標）、②事業計画の実行課題、③自己点検評価報告書の問題点、に分けて記載ください。）</p> <p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学部の認知度を高め、志願者増に繋がる学生募集活動を展開する。具体的には、入試センター、広報戦略室および関連委員会と連携し、オープンキャンパス・高校訪問・インターネット情報公開、出張講義の充実化に取り組む。</li> <li>● 優秀な学生の確保のために、試験結果の分析および受験者・高校の情報収集を行い、効果的な選抜方法の設定に取り組む。小論文および適性能力試験の作問に関しては、試験結果の分析を行い、公平かつ受験者の学力に合った魅力ある問題の作成に取り組む。</li> <li>● COVID-19 の感染状況に応じた柔軟な入学試験を実施し、受験者の不利益を緩和する。</li> </ul> <p>②事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 志願者数延べ 300 名の獲得。</li> <li>● 入試相談会、資料請求、オープンキャンパス、キャンパス見学や高校訪問のデータと志願者数の相関関係を分析することで、今後の志願者数の増加に繋げる。</li> </ul> <p>③自己点検評価報告書の問題点</p> <p>なし（対象外）</p> <p style="text-align: right;">文字数（343 字／700 字）</p>	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>
<p>中間報告</p>	<p>① 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学部の認知度を高め、志願者増に繋がる学生募集活動を展開する。具体的には、入試センター、広報戦略室および関連委員会と連携し、オープンキャンパス・高校訪問・インターネット情報公開、出張講義の充実化に取り組む。</li> <li>→ 作業療法学科の認知度を高め、志願者増に繋がる学生募集活動を展開するためのプロジェクトチームが発足したことを受け、リハビリテーション学部、広報戦略室、入試センターで協力体制を取りながら、作業療法学科の定員充足を目指して対策に取り組んでいる。その1つに新しい企画として総合選抜および推薦選抜試験合格者に対する「入学前セミナー」があげられる。入学金入金締め切り前に合格者に対してセミナーを行い、本学の魅力等を説明した上で附属病院を見学し、併願受験者の歩留まり率を高める試みがある。</li> <li>● 優秀な学生の確保のために、試験結果の分析および受験者・高校の情報収集を行い、効果的な選抜方法の設定に取り組む。小論文および適性能力試験の作問に関しては、試験結果の分析を行い、公平かつ受験者の学力に合った魅力ある問題の作成に取り組む。</li> <li>→ 令和4年度総合型選抜試験及び学校推薦型選抜試験の結果を受けて、令和5年度入試に向けて、総合型選抜試験は、日程を増やすことで受験機会を増やすことを計画している。また、学校推薦型選抜試験は、「適性能力試験型」及び「調査小重視型」の試験区分を廃止し、専願制と併願制でシンプルな試験区分に改めるよう計画している。</li> <li>● COVID-19 の感染状況に応じた柔軟な入学試験を実施し、受験者の不利益を緩和する。</li> <li>→ 新型コロナウイルス感染症に伴う振替等の対応について、一般選抜試験（2教科型・3教科型）の受験者に対して、令和4年2月18日（金）に追試験を実施する。また、大学入学共通テスト利用選抜試験前期（2教科型・3教科型）に対しては、受験料の返還手続きを実施することで受験者の不利益を緩和する。</li> </ul> <p>② 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 志願者数延べ 300 名の獲得。</li> <li>→ 志願者について、総合型選抜試験 23 名、学校推薦型選抜試験 70 名であった。引き続き一般選抜試験、大学入学共通テスト利用選抜試験においても、目標達成に向けて学生募集活動を展開する。</li> <li>● 入試相談会、資料請求、オープンキャンパス、キャンパス見学や高校訪問のデータと志願者数の相関関係を分析することで、今後の志願者数の増加に繋げる。</li> <li>→ 今年度の入試相談会は 6 件、資料請求は約 4,800 件、オープンキャンパス参加者は 255 名、キャンパス見学は 42 名（11 月 20 日現在）、高校訪問は 190 件実施した。分析の結果、総合型選抜試験は志願者 23 名中 22 名がオープンキャンパス（Zoom オープンキャンパスを含む）に参加していたことが分かった。このことから、オープンキャンパス、キャンパス見学等の参加者増が志願者数の増加に直結すると考えられるため、引き続き継続した学生募集活動を行う。</li> </ul>	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <p>・高大接続、指定校の検討を ⇒ 令和3年度に実施した内容があれば最終報告に織り込んでください。なければ、令和4年度の計画に明記してください。</p>

<p><b>最終報告</b></p>	<p>③ 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学部認知度を高め、志願者増に繋がる学生募集活動を展開する。具体的には、入試センター、広報戦略室および関連委員会と連携し、オープンキャンパス・高校訪問・インターネット情報公開、出張講義の充実化に取り組む。 →作業療法学科の認知度を高め、志願者増に繋がる学生募集活動を展開するためのプロジェクトチームが発足したことを受け、リハビリテーション学部、広報戦略室、入試センターで協力体制を取りながら、作業療法学科の定員充足を目指して対策に取り組んでいる。その1つに新しい企画として総合選抜および推薦選抜試験合格者に対する「入学前セミナー」があげられる。入学金入金締め切り前に合格者に対してセミナーを行い、本学の魅力等を説明した上で附属病院を見学し、併願受験者の歩留まり率を高める試みがある。</li> <li>● 優秀な学生の確保のために、試験結果の分析および受験者・高校の情報収集を行い、効果的な選抜方法の設定に取り組む。小論文および適性能力試験の作問に関しては、試験結果の分析を行い、公平かつ受験者の学力に合った魅力ある問題の作成に取り組む。 → 令和4年度総合型選抜試験及び学校推薦型選抜試験の結果を受けて、令和5年度入試に向けて、総合型選抜試験は、日程を1日程増やし、2日程にすることが決定した。また、学校推薦型選抜試験は、「適性能力試験型」及び「調査小重視型」の試験区分を廃止し、専願制と併願制でシンプルな試験区分に改めることになった。そして、一般選抜試験は、2教科型と3教科型の併願を可能とし、受験機会の増加を計る。</li> <li>● COVID-19の感染状況に応じた柔軟な入学試験を実施し、受験者の不利益を緩和する。 →新型コロナウイルス感染症に伴う振替等の対応について、一般選抜試験（2教科型・3教科型）の受験者に対して、令和4年2月18日（金）に追試験を実施する。また、大学入学共通テスト利用選抜試験前期（2教科型・3教科型）に対しては、受験料の返還手続きを実施することで受験者の不利益を緩和する。</li> </ul> <p>④ 事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 志願者数延べ300名の獲得。 →志願者について、総合型選抜試験23名、学校推薦型選抜試験70名、一般選抜試験83名、共通利用選抜試験（前期）71名であった。共通利用選抜試験（後期）を除く志願者延べ数247名で目標数に届かなかった。そのため、令和5年度入試は、総合型選抜試験の日程を1日程増やし、一般選抜試験は、2教科型と3教科型の併願を可能とし、受験機会の増加を計ることで志願者の更なる獲得を目指す。</li> <li>● 入試相談会、資料請求、オープンキャンパス、キャンパス見学や高校訪問のデータと志願者数の相関関係を分析することで、今後の志願者数の増加に繋げる。 →今年度の入試相談会は6件、資料請求は約4,800件、オープンキャンパス参加者は255名、キャンパス見学は64名（1月29日現在）、高校訪問は190件実施した。分析の結果、総合型選抜試験は志願者23名中22名がオープンキャンパス（Zoomオープンキャンパスを含む）に参加していたことが分かった。このことから、オープンキャンパス、キャンパス見学等の参加者増が志願者数の増加に直結すると考えられるため、引き続き継続した学生募集活動を行う。</li> <li>● 東海大学附属大阪仰星高校と連携し、高校指定オープンキャンパスを企画し準備を進めた。これは、当該高校の学生らを高大連携の一環として大学に招き、リハビリテーション、理学療法士、作業療法士についての理解を深めることを目的としたもので、ひいては本学受験者の獲得にもつながることが期待された。当オープンキャンパスは3月7日（月）に実施することが決定した。</li> </ul>	<p>令和4年2月28日開催委員会において承認</p>				
<p><b>自己評価</b></p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="240 1213 332 1373"> <p><b>成果</b></p> </td> <td data-bbox="332 1213 2519 1373"> <p>理学療法学科の志願者増加 令和3年度入試での志願者は101名であったが、令和4年度入試では志願者は204名（共通利用後期を除く）で、志願者数が約2倍となった。理学療法学科に関しては、今年度取り組んできた入試相談会、オープンキャンパス、キャンパス見学、出張講義や高校訪問によって、認知度が上昇し、志願者の増加につながった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1373 332 1564"> <p><b>課題</b></p> </td> <td data-bbox="332 1373 2519 1564"> <p>作業療法学科の志願者の伸び悩み 令和3年度入試の志願者は40名あったが、令和4年度入試は志願者が43名（共通利用後期を除く）で、ほぼ前年度と同数となった。開設後約1年を経過したが、理学療法学科と比べると志願者数に関しては様々な取り組みの成果が出ていない状況となっている。課題解決に向けての対策として、年末にかけて実施した重点的な広報活動を年間通して行う必要がある。また、高校ガイダンス、出張講義の回数を増やし、直接、学生に訴えかける機会を増加させることで志願者数の増加を目指す。</p> </td> </tr> </table>	<p><b>成果</b></p>	<p>理学療法学科の志願者増加 令和3年度入試での志願者は101名であったが、令和4年度入試では志願者は204名（共通利用後期を除く）で、志願者数が約2倍となった。理学療法学科に関しては、今年度取り組んできた入試相談会、オープンキャンパス、キャンパス見学、出張講義や高校訪問によって、認知度が上昇し、志願者の増加につながった。</p>	<p><b>課題</b></p>	<p>作業療法学科の志願者の伸び悩み 令和3年度入試の志願者は40名あったが、令和4年度入試は志願者が43名（共通利用後期を除く）で、ほぼ前年度と同数となった。開設後約1年を経過したが、理学療法学科と比べると志願者数に関しては様々な取り組みの成果が出ていない状況となっている。課題解決に向けての対策として、年末にかけて実施した重点的な広報活動を年間通して行う必要がある。また、高校ガイダンス、出張講義の回数を増やし、直接、学生に訴えかける機会を増加させることで志願者数の増加を目指す。</p>	
<p><b>成果</b></p>	<p>理学療法学科の志願者増加 令和3年度入試での志願者は101名であったが、令和4年度入試では志願者は204名（共通利用後期を除く）で、志願者数が約2倍となった。理学療法学科に関しては、今年度取り組んできた入試相談会、オープンキャンパス、キャンパス見学、出張講義や高校訪問によって、認知度が上昇し、志願者の増加につながった。</p>					
<p><b>課題</b></p>	<p>作業療法学科の志願者の伸び悩み 令和3年度入試の志願者は40名あったが、令和4年度入試は志願者が43名（共通利用後期を除く）で、ほぼ前年度と同数となった。開設後約1年を経過したが、理学療法学科と比べると志願者数に関しては様々な取り組みの成果が出ていない状況となっている。課題解決に向けての対策として、年末にかけて実施した重点的な広報活動を年間通して行う必要がある。また、高校ガイダンス、出張講義の回数を増やし、直接、学生に訴えかける機会を増加させることで志願者数の増加を目指す。</p>					



令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 医学部新国試戦略会議

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 医学部国試戦略会議委員長 谷崎 英昭

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標・計画	<p><b>事業計画の実行課題</b></p> <p>医師国家試験合格率・共用試験成績の向上</p> <p><b>自己点検評価報告書の問題点</b></p> <p>国家試験現役合格率 100%を目指した教育の推進</p> <p><b>関西医科大学中期計画未達成</b></p> <p>6 学年全員の卒業と国試合格率 100%を目指す</p>	<p>令和3年9月24日開催委員会において承認</p>
中間報告	<p><b>事業計画の実行課題</b></p> <p>医師国家試験合格率・共用試験成績の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 学年及び6 学年を対象に、各種模擬試験の受験を推奨するとともに、国家試験対策講義を計画的に開講し、合格率向上に務めている。</li> <li>・共用試験の平均点は、前年度と比して次のとおりの結果となった。特筆すべき事項として、CBT の IRT スコア平均点が前年度比 4.52 点上昇していることであり、これは新カリキュラム導入における教育効果によるものであると考える。</li> </ul> <p>6 学年 Post-CC OSCE 総合評価平均点 78.2 点（前年度比+3.4 点）、概略評価平均点 4.6 点（前年度比+0.3 点）</p> <p>4 学年 Pre-CC OSCE 総合評価平均点 84.3 点（前年度比-2.8 点）、概略評価平均点 4.6 点（前年度比-0.3 点）</p> <p>4 学年 CBT IRT 平均点 508.04 点（前年度比+4.52 点）</p> <p><b>自己点検評価報告書の問題点</b></p> <p>国家試験現役合格率 100%を目指した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンター会、学習支援部会の開催により、課題学生の把握、指導体制は充実してきている。</li> <li>・メンターによるきめ細やかな学生指導を徹底し、学力のみではなくメンタル面におけるサポート体制の充実を図っている。</li> </ul> <p><b>関西医科大学中期計画未達成</b></p> <p>6 学年全員の卒業と国試合格率 100%を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新国試戦略会議において、合格率向上のための施策を定期的に検討している。</li> </ul>	<p>令和4年1月31日開催委員会において承認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IR 部門のデータ解析の強化</li> <li>・国試合格予測率の向上を目指す</li> </ul> <p>⇒ 令和3年度に実施した内容があれば最終報告に織り込んでください。なければ、令和4年度の計画に明記してください。</p>
最終報告	<p><b>事業計画の実行課題</b></p> <p>医師国家試験合格率・共用試験成績の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の医師国家試験：新卒合格率 98.0%（私立医科大学 30 校中 6 位）、総合合格率 94.6%（私立医科系大学 30 校中 11 位）</li> <li>・共用試験の平均点は、中間報告記載のとおり。</li> </ul> <p><b>自己点検評価報告書の問題点</b></p> <p>国家試験現役合格率 100%を目指した教育の推進</p>	<p>令和4年2月28日開催委員会において承認</p>

		<p>・目標・計画どおり積極的に推進し、メンター会（2回）、学習支援部会の開催（12回）により、課題学生を把握・共有し、個々の状況に応じて随時指導を行った。</p> <p><b>関西医科大学中期計画未達成</b></p> <p>6学年全員の卒業と国試合格率100%を目指す</p> <p>・新国試戦略会議（7回開催）において、合格率向上のための施策を定期的に検討したことにより、今年度の医師国家試験合格率は、新卒合格率98.0%（私立医科系大学30校中6位）、総合合格率94.6%（私立医科系大学30校中11位）という結果となった。</p>	
自己 評価	成果	前述のとおり、目標・計画に基づいて、一定の成果はみることができた。	
	課題	6学年全員の卒業と国試合格率100%を目指すべく、継続して検討を行う必要がある。	

令和3年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 看護学部 国試対策委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 近藤麻理

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
目標・計画	<p><b>①独自の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1期生の看護師・保健師・助産師の各国家試験の合格率100%を目指す</li> </ul> <p><b>②事業計画の実行課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各国家試験の合格率と全国模擬試験成績の向上</li> <li>・看護師模試を年4回、保健師模試を年3回、助産師模試を年3回実施</li> <li>・対策講座の開催を年8回（7月に4回・11月に4回）実施</li> <li>・模試結果の学部内下位25%へのフォローアップ学習をグループで実施</li> <li>・下位学生への個別面談と定期的なメール往復で学習状況の報告と把握の実施</li> </ul> <p><b>③自己点検評価報告書の問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現役での看護師・保健師・助産師の国家試験合格率100%を目指した教育の推進</li> <li>・看護学部FD研修を実施し、国家試験対策と4年間の教育推進への全教員の共通理解を得る</li> <li>・本年度、看護学部事務室に国家試験担当の事務職員を配置</li> </ul>	令和3年9月24日開催委員会において承認
中間報告	<p><b>①独自の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師・保健師・助産師の各国家試験について、10月30日の保護者会で委員長から説明と個別面談も実施し理解を得た。</li> <li>・12月18日、2期生に専門基礎模試を実施。その結果より次年度の模試・対策講座等を再検討する。</li> </ul> <p><b>②事業計画の実行課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月末の看護師模試結果は全国61位/210校であったが、10月末の結果は35位/220校と上昇した。</li> <li>・11月末の保健師模試結果は、全国14位/39校であった。</li> <li>・看護師模擬試験を12月までに4回、保健師模試を3回、助産師模試を2回実施した。</li> <li>・1月には、3日間連続で国家試験同様に、看護師・保健師・助産師模擬試験を実施する。</li> <li>・対策講座は、7月20・21・26・27日、11月1・2・8・9日の合計8日間実施した。</li> <li>・各模試後、学部内下位25%～30%へのフォローアップ、学習目標の作成、個別面談を実施した。</li> <li>・下位学生3～5名は、その後も継続し約2か月間メール等を利用した学習指導をほぼ毎日実施した。</li> </ul> <p><b>③自己点検評価報告書の問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月16日には看護学部FD研修を委員長が講演し、全教職員より国家試験対策への共通理解を得た。 また、毎月の教員会では配布資料とともに国家試験に関する情報提供を行った。</li> <li>・6月より看護学部事務室に、国家試験担当の事務職員を配置している。</li> </ul>	令和4年1月31日開催委員会において承認

<p><b>最終報告</b></p>	<p><b>①独自の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師・保健師・助産師の各国家試験について、10月30日の保護者会で委員長から説明と個別面談も実施し理解を得た。</li> <li>・12月18日、2期生（3年生）に専門基礎模試を実施。模試の自己採点結果より、本年と同様のスケジュールで各国家試験模試と対策講座を組むこととした。</li> </ul> <p><b>②事業計画の実行課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月末の看護師模試結果は全国61位/210校であった。10月末の結果は35位/220校、1月初旬の結果は67位/770校（41,321人）と上昇している。</li> <li>・11月末の保健師模試結果は全国14位/39校、1月初旬の結果は59位/104校（2,562人）であり91.6%がAあるいはB判定であった。</li> <li>・本年度は、看護師模擬試験を1月までに5回、保健師模試を4回、助産師模試を3回実施した。</li> <li>・1月6・7・8日には、3日間連続で国家試験同様の時間帯で看護師・保健師・助産師模擬試験を実施した。</li> <li>・対策講座は、7月20・21・26・27日、11月1・2・8・9日の合計8日間（10:00～16:00）実施した。</li> <li>・各模試後には学部内下位25%～30%へのフォローアップとして、グループでの学習の振返り、個人の学習目標の作成、個別面談を実施した。</li> <li>・フォローアップ学生及び質疑応答のある学生は、ZOOMやKMULASのメールを利用した個別の学習指導を1月中旬まで実施した。</li> </ul> <p><b>③自己点検評価報告書の問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月16日には看護学部FD研修を委員長が講演し、全教職員より国家試験対策への共通理解を得た。また、毎月の教員会では配布資料とともに国家試験に関する情報提供を行った。</li> <li>・看護学部事務室に、国家試験担当の事務職員を数名決定し願書申請手続きと送付などを滞りなく終えることができた。</li> <li>・自主学習の部屋については、事務室で空き教室を工面し準備したがコロナ感染拡大により登校が不可能となつてからは自宅での学習とした。</li> </ul>	<p>令和4年2月28日開催委員会 において承認</p>
<p><b>自己評価</b></p>	<p><b>成果</b></p> <p>①各国家試験の合格率は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第111回看護師国家試験の合格率 受験者数95名、合格者数94名、合格率98.9%（合格率（全国）91.3%）</li> <li>・第108回保健師国家試験の合格率 受験者数95名、合格者数91名、合格率95.8%（合格率（全国）89.3%）</li> <li>・第105回助産師国家試験の合格率 受験者数10名、合格者数10名、合格率100%（合格率（全国）99.4%）</li> </ul> <p>②100%合格のための模擬試験、対策講座、フォローアップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学年全体における模試結果の全国順位の向上は、看護師、保健師、助産師国家試験すべてにおいて見られた傾向である。</li> <li>・模試結果が下位の学生には、細やかな集団と個別のフォローアップを行いモチベーションをあげることで、多くの学生の模試結果は向上していった。</li> <li>・対策講座では7月に4日間、11月に4日間と時期を2回に分けて集中して行ったことは、模試結果を受けての弱点克服の機会ともなり効果的であった。</li> </ul> <p>③問題点の解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員の理解と協力を得ること、毎月の教員会での情報共有などにより看護学部全体で1年生～4年生までの国家試験準備を支援することができていた。</li> <li>・事務室の担当者らがその役割を十分に果たし、自主学習の部屋については4年生を優先する形で確保できるように努力した。</li> </ul>	
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1期生の合格率が、2期生以降の強いプレッシャーにならないよう、今後の国家試験対策を進めていくことが必要である。</li> <li>・新しい教員を迎える次年度も継続してFD研修を実施し、全員が一致して1年～4年までの一貫した国家試験対策を担えるよう理解と協力を求める。</li> <li>・自主学習の部屋に関する要望が学生からあったことから、感染症にも対応可能な、落ち着いて勉強できる自主学習の部屋の確保が重要である。</li> <li>・国試対策委員会では模試や対策講座などの役割が多いため、委員一人一人が負担にならないように委員会の人数や役割についても検討が必要である。</li> </ul>	